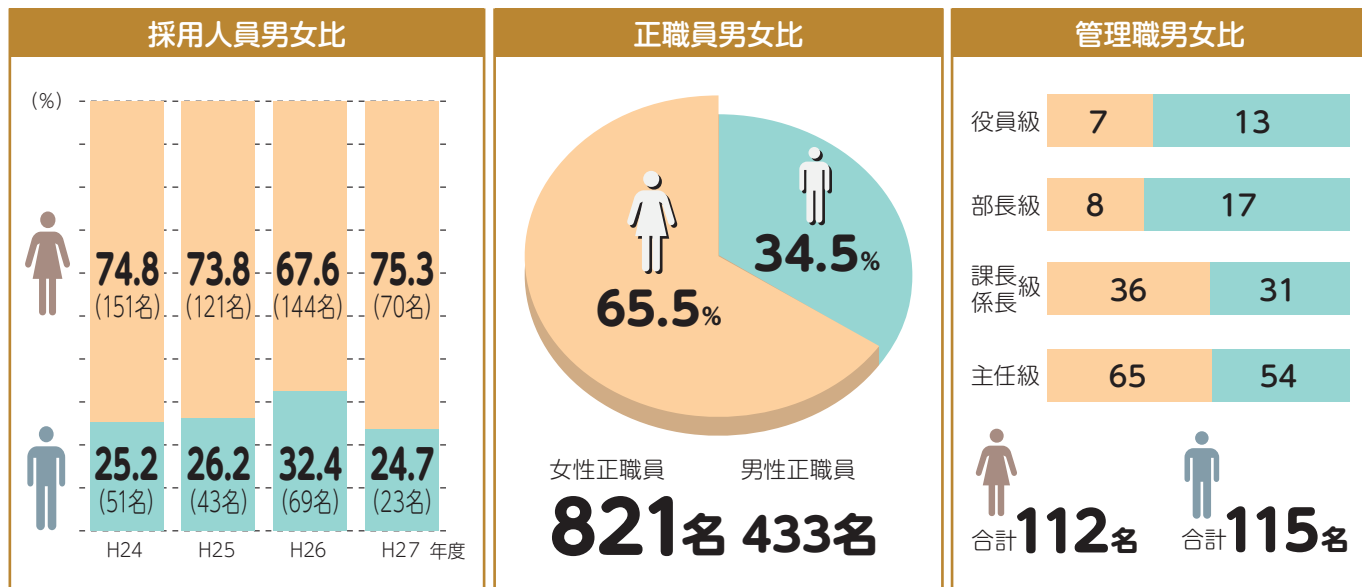


輝生会 女性職員の活躍

“One for all All for one”

「人間の尊厳の保持」を基本理念のひとつに掲げる輝生会は、患者さまは元より職員ひとりひとりを大切にします。チームワークが定着している組織だからこそできる「ひとり、みんなのために。みんなは、ひとりのために。」職員全員が同じ制服、お互いを「さん」づけで呼び合うことなど輝生会は男女ともに伸び伸び活躍できる職場です。豊かな教育の機会があり、昇級のチャンスに男女の差はありません。医療現場はもともと女性が多い職場ではありますが、輝生会は部長クラス、役員クラスにも男女の別なく登用されますので女性であっても積極的に組織運営に参画できます。

※平成27年4月1日資料によるグラフです



輝生会は、多くの女性が活躍している職場です。それは輝生会の基本方針であるチームアプローチに基づいて教育され、チームの一員としてそれぞれが成長し、活躍できる環境があるからです。特に各職種を取りまとめるチームのサブマネージャーたちは、このような環境の中で成長を遂げた魅力的な人材で、職場の雰囲気そのものと言えます。また、新人であっても活躍の場は多岐にあり、チームの支えによって目標を達成し、成長を遂げるその姿はチームの活気につながっています。子どもを持つママスタッフたちも時短勤務の限られた時間の中で、患者さまを担当して活躍しています。子どもを育てることで生まれた新たな力は、仕事にも良い魅力を引き出していると感じます。急な休みの対応なども柔軟に対策されていて、ママサポートという支援体制も始まり、女性も安心して働き続ける環境作りに取り組んでいます。

初台リハビリテーション病院 チーフ
平田千恵 (Ns)

輝生会で一番好きなのは、スタッフ同士が「〇〇さん」と呼び合うことです。「〇〇さん」は性別や上下関係に差がなく、それでいて丁寧な敬称です。小さなことかもしれませんが、誰とでも話しやすい風通しのよい職場のベースになっています。お互いを理解し合う環境があるからこそ、そこに信頼関係も生まれます。病院は女性の多い職場ですが、輝生会もそうですね。男性には男性の、女性には女性の、それぞれのやさしさ、たくましさがあります。男性だから、女性だからではなく、一人の人間として、個性を大事にしつつ、お互いを認め合い、支え合う雰囲気があります。そして、男女を問わず信頼できる仲間ができます。輝生会は、患者さまだけでなく、職員も輝いて生きる(活躍すること)のできる、そんなところなんです。

船橋市立リハビリテーション病院 チーフ
峯下隆守 (OT)

女性活躍推進法に基づく行動計画

- 計画期間: H28.4.1~H30.3.31
 - 目標: 「ファミリーカフェ」を年1回以上
- 輝生会では3歳未満児を育児する女性のモチベーションアップを目的とした「ママサポート」を運営しています。自らが両立支援制度を最大限活用しながら自律的に成果を上げることを推進するためには、ピアサポートも大切な要素。そこで、平成27年度に施行的に開催したイベントを定例化します。